

第5回 安曇野市文化振興計画策定市民委員会 会 議 概 要

1	協議会名	平成22年度第5回安曇野市文化振興計画策定市民委員会
2	日 時	平成22年6月30日 午後1時30分から午後3時まで
3	会 場	安曇野市穂高交流学習センター“みらい”地域学習室
4	出席者	笹本委員長、百瀬副委員長、三原委員、濱委員、小山委員、伊澤委員、三原委員、 矢ノ口委員、石田委員、細川委員、鈴木委員、岡本委員、降旗委員
5	市側出席者	丸山教育長、飯沼教育次長、竹内文化課課長、山田文化振興係長、那須野文化財保護係長、三澤文化振興係主査
6	公開・非公開の別
7	傍聴人	0人 記者 人
8	会議概要作成年月日	平成22年8月11日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- 1 開 会 (竹内課長)
- 2 挨拶 (丸山教育長・笹本委員長) [自己紹介]
- 3 協 議
 - (1) 市民アンケートの結果について (アンケート結果の概要説明)
 - (2) 「文化振興計画」の骨格について (専門委員会での概略説明)
 - (3) 具体的な施策について (他計画の関係事項等説明)
 - (4) その他 (午前中の視察感想)
- 4 閉 会 (竹内課長)

2 協議概要

(1)市民アンケートの結果について

委員長・これは集計結果報告で、ここでは皆さんの感想等をお伺いし、今後の振興計画を作っていく時の参考意見、計画に活かすまでの材料にしたい。感想、意見等いただけませんか。

委員・自由意見を読み、人々の願いは、「これから育つ者、小・中学生、そういう文化人による地域の大事な物、ありがたい物と接触する機会を何とか多くしてほしい」という意見が多くあり、一つの願いになっていると思った。教育委員会として、今後どう対応していくかという問題に結びつく。二点目。「今回初めてこういう文化施設があることを知った」という方々が実に多い。決して文化の発信はしていないはずはない。していたにも関わらず、アンケートに臨んだ人の回答が「初めて知った」ということであり、このところをどのように受け止めていくか。我々が目指していく文化をいかに生活の中に言い回し、活用するか課題だという感想。三点目。利用回数。多様な地区にある館、施設に全く行っていない方が結構ある。改めて大変な事。自由意見の中にも色々批判の言葉もあり、それをそのまま受ける訳ではないが、いかに魅力ある内容にして、且つこれをどのように統廃合に結び付けて行けばより有効な施設配置が出来るかと、その辺に大きな課題がある。四点目。予想外に自由意見に差がある。書いてある側の人々の関心の所在を知り得るかなど。違う面から言えば、この会への期待度になるし、業者に依頼した調査だから問題をいくつか拾い出し、検討すべき所は検討した方がいいのではないかと。

委員長・今の意見は今後に向けて大事な点がいくつか指摘され、①私達が考えるのは未来の事であり、文化を創るには子供達との関わりをどうしていくか。②文化施設の周知の問題。今回私共が明科に入り、多くの人々が一度も行った事がなかった。同じ市の中にも私達自体が市の事を知らない。博物館施設に関してもそういう傾向があるが、これを今後どうしたらいいか。③利用頻度の問題は非常に回数が少ない。行くだけの魅力がないという事に繋がってくる。私共に課せられた問題として、これからの博物館のあり方、統廃合の問題を含め、魅力あるものにするにはどうしたらいいかという事を考えなければいけない。④更に自由意見が出ているということが大きな意味を持っている。良い、悪いという意見があるが、それぞれ言い放しであり、自分達は良く知っていない。自由意見をきちんと聞いていく中で私達の課せられた問題になってくるであろう。内容的にはほぼまんべんなく含めて頂いたように思う。

委員・美術館の審議委員の立場から思った事は、高橋節郎記念美術館などの美術館・博物館でかなりい

い展覧会を企画しているが、参加をみるとがっかりする数字。いい企画であるというだけでは駄目なのかと。地域を巻き込んだものが出来ないと難しいのでは。

委員長・この問題の中には、節郎館のギャランティが書いてある。それに関係してどういうものを持つ意見かというのは、それぞれ課せられた課題。自分達は良いと思っても市民は必ずしも良いと思わないものもある。一方で理解がないという場合もある。周知の問題も出たが、何をもって良い事をやるのかきちんと訴えていかなければならない。私は今日明科の文化財を視察に行き、色々勉強になった。良い思いをしたという事は負担が増えるという話をしたが、私達は最前線に立って委員として文化とは何かをきちんと訴える役割を持たざるを得ない。その意味も良い展覧会というのは私達が考えなければならない。それと同時にどうしたら来てもらえるか。金額の問題も、例えば図書館は相当お金をかけているが本の提供は無料。ところが美術館は必ずお金を取る。大した収入でないが取る。その事も各地域とも考えてはいない。文化を創るという時に図書館はただで、他はお金を取るというのを考えると、良い展覧会に目が行かないというのはお金を出すのが「もったいない」と思うからなのだが、「もったいない」と言いながら市民の税金だという事は気が付いてないという側面もある。今の意見も重要。今後の計画の中にそのような視点も採集していく。

委員・注意点に相反する意見がかなりある。例えば、「市民文化会館が欲しい」という意見と「これ以上施設を増やしては困る」という意見。全体的な市の財政もあるので、新しいものでなく、既存の施設の統廃合や有効活用を望んでいる印象を受ける。もう一つ目に付いた点は、景観の重視という点だ。自然だけでなく、人が農業をしたり、仕事をしたり、また、土蔵や屋敷林にも目が向いている。市民自身がどう展開していくか、何か幹になるものが必要かと思う。「あなたの好きな景観」を募集したところ、冬の部はあまりなかったが、春の部は90点応募があった。みらいに展示したが、市民に良い所を教えてもらい、参加してもらえば事業が結び付いていく。自主的に参加できるようなものを委員会として考えて行った方がいいのでは。

委員長・アンケートの質問があった部分には、それぞれ相反する部分もあり、経済効果と文化効果、双方計りかねていかなければならない。市の限られた財政の中で効果があるのか、これから先、私達の側で説明責任がある。文化ホール的なものにしても、稼働率等すべて考えると、理想と現実の問題がある。とりわけ建物の問題は我々に課せられた問題である。二番目の景観について、今の振興計画の中で一番重要視していこうとするものに対し、多くの共感を持っている。文化は皆で創って行くもの。アンケートで文化活動をしているかという箇所は非常に低い。その際の文化のイメージは人によって違う。「食事も文化」と言われた方がいたが、文化活動をどこに置かかによって視点が全く違って来る。そういう意味において、私達は「文化活動は何をするか」「どのようにしたら市民が動くか」「どのようにしたら自主参加ができるか」それは私達の誘導の問題ではないが、文化とは何かをきちんと訴えた上で認識してもらい、文化は市が何かを言うのではなく、市民一人ひとりの問題であり、自主参加ができる計画の問題等出てきたので、そういう活動も少し前回の中に入れ込めればと思う。

委員・今回言われた、取り残される、廃物になるものには手を打たなければいけない。文化財、景観の場合は文化財指定でなくても、必要なものは必要なものとして残しておきたいものは沢山ある。早く手を打たなければならないものあり、方向性は一致しているので、計画を早く作り、組織化し、建物も含め早く分類し公表して多くの市民に見てもらいたい。とりわけ、学校と力を合わせて子供たちに伝えてもらいたい。その方向性をうちだしてもらいたい。

委員長・アンケート内容から、方向性は市民と私達の内容は一致している。市民の方もバックアップして使うべきという意見。その上で文化財その他、急激になくなりつつあるものは早く手を打つべきだ。そういう事の為に学校教育が大事だというご指摘。逆にバックアップして、手を打つ時には私たちは責任を負わなくてはならない。文化財に関係して本当に良いか悪いかというのは、手をうってしまって悪い場合もある。他所の状況も悪くなった事例はいっぱいある。そういう事も含め、私達自身が勉強をしなければならない。同時に、この委員会そのものを市民に対し開放しても良いと思っている。そういう事が共有に繋がる。あとは学校の先生にもっと勉強してもらい、子供たちに郷土教育を行って欲しい。昨年、安曇野地区の社会科の先生に話をした。その点でも尽力するつもりだが、お互いのやっている事を市民に浸透化していくように責任持ってやっていきたい。

委員・アンケートの回収、回答者の年齢的なものは出ているか？

事務局・(説明)

- 委員・・これを見て残念なのは若い人の回答、考え方が出てこないこと。
- 委員長・逆に私達の責任が大きいのと思っている。今の若い人達は非常にきつい状況にある。仕事も社会状況も、文化なんて余裕な事を言っている状況に無いのだと思う。そういう状況になったことには年配者が責任を感じなければならない。一方で「どうしたら若い人に関心を持ってもらえるか」ということが、我々の課題である。
- 委員・・両極の意見が出ている。具体的に考えなければいけない。文化振興計画という中で、文化とは何かという所で、文化財という「もの」に偏りすぎているのかと。私は音楽をやっているのもそういう感じがしている。その中にもホールを作った方がいいとか、箱物はいらぬという意見もあるが、安曇野市として考えた場合、大勢集まるホールが現在ない。例えば豊科高校の吹奏楽部にしても演奏会を松本でやっている状況。そういうのがいいのかという事も考えなければいけない気がする。午前中、明科のお寺・神社関係を見学し、良い物を見せてもらった。安曇野市で良いところがあると話しには聞くが、なかなか行く機会がない。場所も良く分からないという事もあり、こういう物がこういう所にあると、どう市民に分かってもらうのが良いか考えていかなければならない。
- 委員長・両極の意見が出るという事は健全だと思う。両側の意見がないようなアンケートでは意味がない。ただ、私達はどちらかの意見にしなければいけない。研究し、結論を出さなければ委員会として必要ない。どういう意識をもってどう結論を出したか説明がつくようやっていく。文化という意識。物の意識だけでなく、建物・言葉・風景すべてが文化という事から出発し、私達の生活そのものが文化だと、飛び抜けたものだけが文化という考え方はまずい。
- 委員長・若者文化という言い方をするが、若者に対して年配の人は必ず否定する。相克の関係がある。経験した者からして若者の持つ文化が良いか悪いか、容認できないと。文化は常に上を向いている。ただ、ここでは全てを容認するのではなく、緩やかに且つすべてを文化ととっていかないと旧来のものだけになってしまうから、私達はなるべくとりたくない。文化に関して幅広く自覚するという事もきちんと入れて行きたい。
- 委員・・自由意見に長い目で見てという期待度はある。合併し、努力して事業を進めているが、その評価はまだ不十分。長期の目と、動きが出ているという見える結果と、色々な想いを持った。
- 委員長・長期の目はしっかりもたなければいけないが、時代の流れにより違ってくる。いつでも自問自答し、その上で合併により何が変わるか、自覚しながら進めていく必要がある。
- (2)「文化振興計画」の骨格について
- 委員長・私達にとって「文化振興計画」の骨格が一番大事で、これがしっかりしないと前に進められない。専門の先生方、県の計画を作った方も入っているが、全国的にも通用する人選だ。協議の結果、第1章、2章は賛成。いかにも安曇野らしいとの言葉を頂いた。その上で3章に関し、安曇野市の特徴的な文化というのなら、文化として自然を見るなら風土という言葉のほうがより良いのではないか。その上で展開される歴史、民俗、人物が出てくる。次に文化施設。芸術文化活動とあり、まとめて「学びとふれ合い」にしたら良いのではという意見があった。4章に関しては、今の安曇野市の特徴的な文化を見た上で文化施設の展開ということになると、「保持したい」というのではなく、むしろもっと積極的に「育てたい」というのがいいのではないか。更に「学びたい」というのがいいという意見であった。皆さんの意見を聞いた上で受け入れて行きたい。
- 委員・・指摘を頂戴すると、頷ける。大変ありがたい事だと思う。
- 委員長・今まで保持するというのは、委員たちの意見からするとそのままの形で保持するという意識が強い。より良く、もっと前に踏み出すという意味でも、「育てたい」としたらどうかと理解した。例えば文化財指定、古文書整理も保存、保護ばかり言うけど、それを学びより良くしていく部分が必要となってくる。
- 委員・・私は4節が「学びたい」、5節が「育てたい」とした方が良い。文化財があり、そこから学び知ってもらおうという所が出発点になると思う。既に色々な文化活動が行われているが、どんどん育て発信していく、そういう事じゃないかと思う。
- 委員長・今の話で、学ぶというのが大前提で、その上で5節、育てていこうという順序があると思う。私も今の意見に賛成だがいかがか。第4章4節、「育てたい安曇野の文化」となっている所を、「学びたい安曇野の文化」とし、その上で「育て」ていく。流れからすると全体的には、残し、伝え見せ、学び育てるという非常にきれいな構成になっていくので、このように持っていきたい。
- 委員・・「学び」と「ふれ合い」とまとめたのは構わないが、外でやるイベントは問題ないが、館を必要

とするイベントには何の考え方も出ていないのではないか。将来的な考え方として館・ホールは要らないという考え方なのか。

委員長・市民活動に場所が用意されていないという事で必要だという意見だったら議論すれば良い。市のホールを造るという考え方は文化振興計画の中にはない。そういう物はどうするのか議論が必要。

委員・ここに挙げられたイベントは外でやるものばかり。つまり、現在、ハコがないから外でやらざるを得ないのが現状である。

委員・この計画が5年先でいいのか、10年先までの計画か、将来的にはホールというものも少しは考え方の中にあってもいいのではないか。

委員長・今、しっかり決めて頂きたい。わが市では建物は作るべきだという事が決まれば計画に書くべき。そこまで必要ないだろうという意見なら書かなくてもいい。むしろ今後の事として「学びとふれ合い」に文化施設がどのレベルまで必要か。私達は意見の一つ一つに責任を負わなければいけない。問題視されている博物館の統合という意見がでてきているので、どこかできちんとしなければいけない部分がある。安曇野市の特徴的な文化についての現状認識が必要だと思うので、その事を前提に文化施策の展開に建物が必要か議論したい。

委員・合併前の地域から始まったことはその範囲で動いているが、ホールが大きくなったら全市へ呼びかけたい。やる内容を充実させたいという願いがあって、その為には入れ物が必要。

委員長・確認だが、第3章は現状認識。現在このような事業が行われている事を前提に、文化施策はこう展開していくべきという論理からすると、育てていくものがあるなら建物は必要。計画に載せる以上は実行するものを書きたい。最終判断は市民の皆さんに下してもらおう。

委員・先程のアンケートでもハコモノを作るとするのは反応が大きい。既存の施設の有効活用というのでも出ている。特徴的な文化の中には建物がないとできないという訳ではないので、それはそのままでもいい。4章3節で将来的にはネットワーク、他の市と共同でやるとか、それが浸透し大きくなるということもある。そういう方向を目指すべきだと思う。

委員長・施策の大綱をやっつけようとする、建物は必要となってくる。ここに書いてある通り、美術館や、学術資料の収集のための建物が必要なのは暗黙の了解である。文化施策の展開としてこういう状況があるということを書いた方が有効性を持つか、書かない方が有効性を持つと考えるかで論議を決めてしまう。最終的に我々が意見を統一しないと進めない。第3章第5節は現状の話であり、皆さんが論議しているのはこれから建物が必要なのかどうかである。

委員・現状という点で言えば、計画に入れる必要はないと思う。第2章の計画の中に基本的な考え方の基本目標の中に芸術文化施設の充実と謳ってあるので、目標として充実させていきたいというがあるので、あえて現状認識であれば入れる必要はない。どうしてもという場合は美術館・博物館の辺りに公民館や「みらい」などの今ある施設を入れればどうか。

委員長・第2章で基本目標の4つの柱を言った。現状認識を第3章でやり、第4章で施策の大綱。第2章で認識されているのなら具体的な建物があるのは大前提なので、計画に入れる必要がないという意見をいただいた。

委員・三郷地区なら公民館にある程度入る施設、社会体育館、児童館、その次に図書館兼ホールを作る計画が答申として出ている。それぞれの地区に市として進めていく計画があると思うので、それをしっかり検証しないと。理想的には全市的な物があればいいが、慎重に考えないといけないと思うので、この計画にははっきり書かない方が良く思う。

委員長・市の方としては、建物の基本構想について私達がそれを論議するものかどうかを聞きたい。

事務局・ホール等を計画に盛り込むかどうかという内容については今後検討する施策の大綱の中で、どう触れていくかという部分になると思う。

委員長・今私達がやっていくのは大きな骨格の部分。これから具体的な計画を作っていく中で論議せざるを得ない。入れるか入れないか、現段階では積極的に入れるという部分が少なかったもので、このまましていく。ただし建物が必要でないという事は誰一人思っていない。具体的な建物の問題は次の提言。第3章の5は特徴的な文化施設を入れる。大きな流れに関して、第4章4節5節の言葉「学びたい、育てたい」を逆にする事まで決めた。

委員・その前に第3章の人物の所。農業関係、経済人、そういうものの代表も一人くらい入るべきでは。

委員長・人物に関しては相当多くの人がいる。人に関しては市側と協議し選びたい。

(3) 具体的な施策について

委員長・資料3は今後やっていく時の素材としてしっかり認識しておくという事で良いのではないかと。総合計画は今後こうするという事の次に具体的な状況が書いてある。安曇野市の教育に関しての素案だからそのままが良いと思う。教育計画をしていく以上は私たちとの間で整合性が取れるようにするという事。それから環境基本計画。これは住んでいる私達の環境問題なのでその中に書かれている事は私達が重要視する事と殆んど重なっている。これを街づくりという視点でなく、文化という点できちんと認識する事で計画を作っていくということで問題はないのではないかと。更にその中に景観なども入れられているので、文化として私達が主張しなくてはいけない事も市として今まで重要視して施策をしてきているので、その上に更に組み立てるようになっていきたい。市の具体的な施策に則った上で更に書き込みをするということ、今後具体的に話をしていきたいということで、今日は認識をしたい。その他、本日の感想等あれば。

委員・本日数箇所歩いて大変参考になった。これを一般市民にも機会を作ってあげたい。

委員長・実は市のことを知らないが歩くと面白い。機会あるごとに見て頂き、一歩でも前に進みたいと思うが、市民が理解しないとどうにもならない。文化振興とは市民が安曇野市を良い所と認識することから始めたい。

委員・3箇所見せて頂いたが、社や文化財の古さだけでなく、社を囲むしだれ桜や木立も含め景観が素晴らしいと教えていただき、更に視野が広がった。そういう見方はなかなか出来ない。文化財を残すと言った時に、建物だけ残せば良いのではなく、全体としての景観を残すというのは大変な作業だが、その足跡は大きいと思う。そうした場合色々な意見があるが、これはこういう視点から大切なんだという説得する力を私達も持たなければならない。

委員長・皆さんは市から文化の中心になってくれる人として選ばれているので、自覚しながら学びながら進めていきたい。

委員・委員が市の所有する文化施設を訪ね、施設のスタッフと意見交換する事が必要だと思う。

委員長・教育委員会の対応ですぐ出来ると思う。意見を言っただく事は市にとっても大変良いこと。勉強すればする程状況が分かっただけなので、出来るだけ行って欲しい。私達が地域を見ていくときに、私達の時代の目だけで見ると時々いろんな誤りがあるので、より地域を学び、それをそのまま子供たちにきちんと伝えていきたい。